

第2 目標

幼児教育施設としての役割を果たすために めざすものとは？

<保育所>

子どもが生涯にわたる人間形成にとってきわめて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす場である。養護と教育を一体的に行う保育を軸に乳児から幼児までの連続的な視野で幼児教育施設としての目標が次のようにしめされている。

- (1) 生命の保持及び情緒の安定を図る。
- (2) 心身の健康の基礎を培う。
- (3) 人との関わりの中で、愛情と信頼感、人権を大切にする心、協調の態度、道徳性の芽生えを培う。
- (4) 生命、自然及び社会の事象についての豊かな心情や思考力の芽生えを培う。
- (5) 生活の中で、言葉への興味や関心を育て、言葉の豊かさを養う。
- (6) 様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、想像性の芽生えを培う。

<幼保連携型認定こども園>

教育及び保育の目標は、認定こども園法第9条にある下記の6項目である。

- (1) 基本的な習慣
- (2) 自主、自律、協同の精神
- (3) 豊かな感性と表現力の芽生えを養う
- (4) 心身の健康の確保及び増進を図る
- (5) 思考力の芽生えを養う
- (6) 言葉の正しい使い方及び相手の話を理解する

これらの目標は、その後の義務教育だけでなく生涯学習の基盤となるもので、これからの持続可能な時代を生きていく子ども達に「生きる力の基礎」を育てていくためのものである。

<幼稚園>

学校教育の始まりとして幼稚園があり、学校教育法第 22 条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- (1) 基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
- (2) 集団生活を通じて、家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。
- (3) 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
- (4) 日常の会話、絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
- (5) 音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。